

シリアの動きとトルコ【2013年10月4日】

1. 各国の動き概要

【シリア】

■27日、シリア国民連合ジャルバー議長は、ウェブサイトにおいて、アサド政権が化学兵器を使用したことによって罰を与えられるべき存在なのか、或いは化学兵器を完全に廃棄するための信頼すべきパートナーであるべき存在なのか曖昧になっているとして国際社会を批判。

■シリア人権監視団によると、2011年3月18日から2013年9月30日までの死者数は、11万5206名。(アル・ジャジーラ衛星放送)

■ズウビー広報相は、シリア国営TVインタビューにおいて、「トルコその他の近隣諸国は、テロリストと武器が通過するシリア国境を閉鎖すべきであり、カタール及びバクはテロリストへの送金、訓練キャンプの設置等を中止しなければならない。」と発言。

■ムアッリム副首相による演説(第68回国連総会)

- ・化学兵器禁止条約への加盟に伴い、条約の完全実行、OPCW(化学兵器禁止機関)への協力を約束。
 - ・国際社会によるシリア政府への圧力や干渉を批判。
 - ・反体制派武装勢力支援諸国を非難。
- (シリア国営放送ウェブサイト)

【国連】

■9月27日、国連安全保障理事会は、全会一致で、シリアの化学兵器廃棄を義務付ける決議を採択。

■国連調査団、シリアにおいて、化学兵器使用に関する追加調査を実施。

19名で構成されるOPCW調査団が10月2日シリア入り。(アル・ジャジーラ衛星放送)

■10月2日、安保理は、シリア人道情勢の悪化に対する懸念とシリア政権による人権・国際人道法違反、武装グループによる人権濫用を非難する等の議長声明を发出。

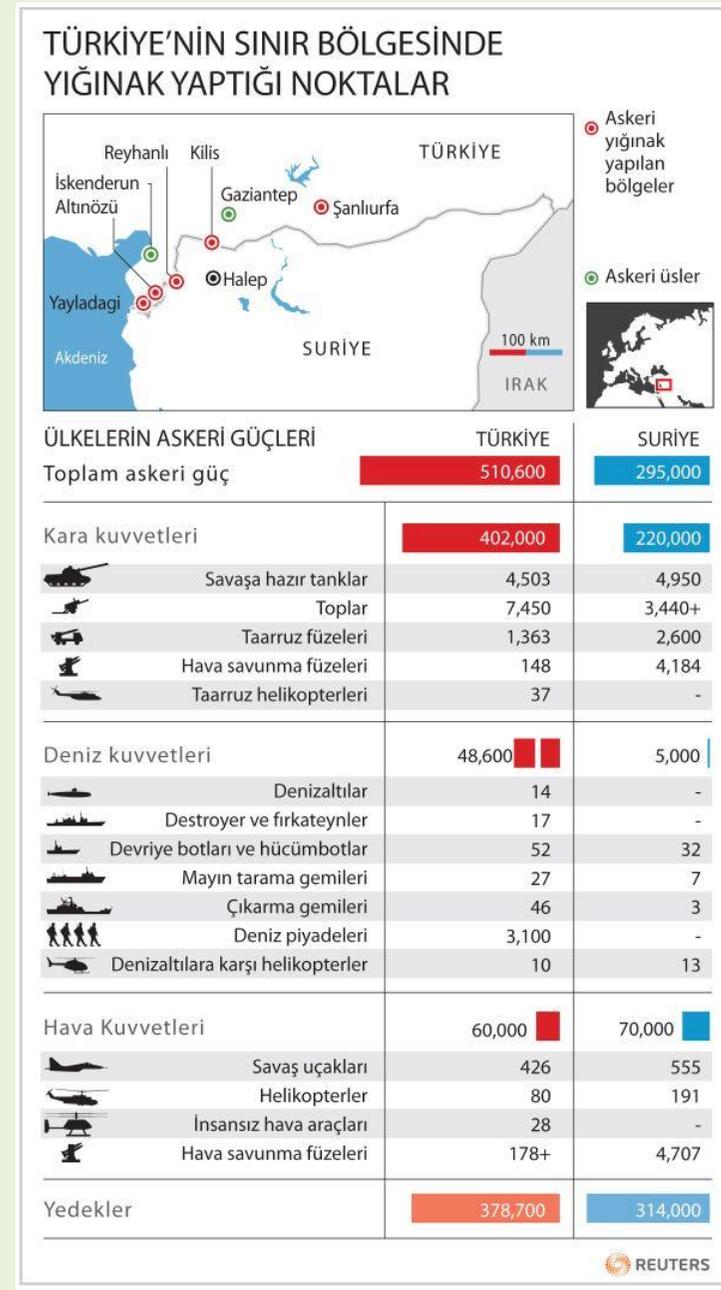
【サウジアラビア】

■サウジアラビアは、国連におけるシリア情勢に係わる進展、化学兵器使用に関する調査報告書が化学兵器使用の責任を明確にしなかったこと、安保理の動きが化学兵器の扱いに集中し、シリア情勢そのものが脇に追いやられてしまったことに対し不満を持っていることから、国連における演説実施をキャンセルし、内容の配布すら行わなかった。(2日付サウジアラビア・ハヤート紙)

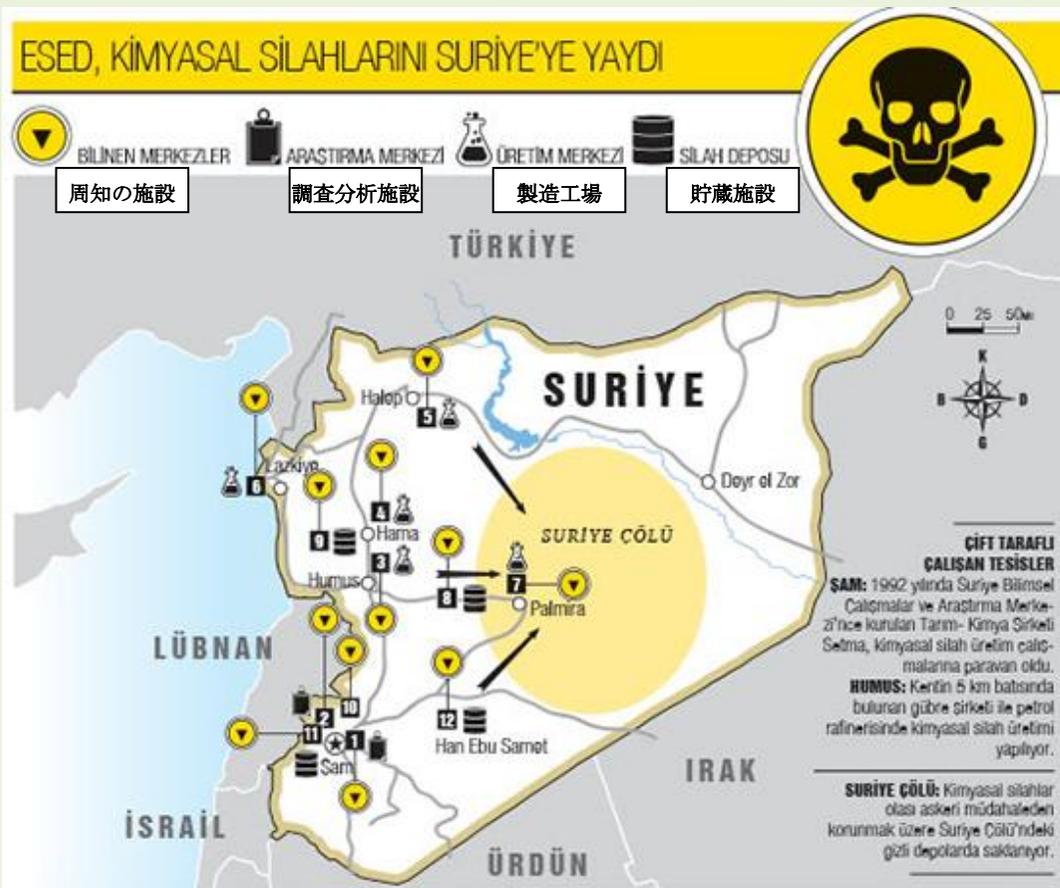
【イタリア】

■9月27日、ボニーノ外相は、「イタリアは、シリアの化学兵器廃棄に向けた国際的な査察団の作業に参画する用意があり、作業及び責任を分担することに関心がある。」との声明を発表した。

【参考】シリア軍とトルコ軍の装備等比較



【参考】シリア国内の化学兵器施設（国際対テロ研究所 HP から）



BİLGİ KUTULARI

- 1 Kimyasal ve biyolojik silah çalışmalarını yürüten Suriye Bilimsel Çalışmalar ve Araştırma Merkezi (SSRC)
- 2 Kimyasal-biyolojik silah geliştirme merkezi
- 3 Humus: Petrol rafinerisi görünümünde kurulan Sarin ve VX gazı üretim tesisi
- 4 Hama: Sarin, VX ve füze üretim merkezi
- 5 El Safira: 2005'te kuruldu. Sarin üretimi ile kimyasalların füze ve roketlere adapte eden ana tesis
- 6 Lezkiye: Sarin ve VX gazının üretildiği bölge
- 7 Palmyra: Sarin ve VX üretim tesisi
- 8 Furklus: Sehrin 4 km kuzeydoğusunda kimyasal silah deposu mevcut.
- 9 Masyaf: Gizli depo
- 10 Dumayr: Hava üssünde gizli kimyasal silah deposu var
- 11 Dummar: Hava üssü
- 12 Han Ebu Samet: Kimyasal silah deposu

KAYNAK: ULUŞLARARASI TERÖRLE MÜCADELE ENSTİTÜSÜ (ICT), NÜKLEER TEHDİT GİRİŞİMİ (NTI)

左図下部の概訳

- ①化学・生物分析センター シリア医学研究センター
- ②化学・生物兵器開発センター
- ③ホムス：石油掘削精製工場に偽装したサリン・VX ガス製造工場
- ④ハマ：サリン・VX ガス・ミサイル製造工場
- ⑤アルサフィラ：サリンのミサイル搭載施設
- ⑥レスキエ：サリン・VX ガス生産工場
- ⑦パルミラ：サリン・VX ガス生産工場
- ⑧フルクルス：化学兵器貯蔵施設
- ⑨マシヤフ：化学兵器貯蔵施設
- ⑩ドゥマイル：空軍化学兵器基地
- ⑪ドゥンマル：空軍基地
- ⑫ハン・エブ・サメット：化学兵器貯蔵施設

2. 化学兵器関連過去報道（インターネット紙から抜粋）

(1)シリア反政府勢力の報告によると、シリアは、1973 年ロシアから化学兵器を購入。1980 年代から製造を開始。主にマスタードガス、サリンを所有している。（8月23日付Haber7.com）

(2)アサド政権は化学兵器貯蔵量世界第4位である。アルサフィラ地区が反政府勢力により掌握される直前、同地区に貯蔵していた化学兵器はラスキエに移動された模様。アサド政権は、射程110kmのSS-21ミサイル、射程300km～480kmのスカッドミサイルを保有している。

ダーヴトオール・トルコ外相は、アサド政権は、約700発のミサイルを保有しているが、トルコは配備場所を知っていると述べた。（8月23日付サバフ紙インターネット版）

3. トルコ国内報道（全国紙から抜粋）

●ジェイランブナル、国境付近での戦闘続く

南東部シャンルウルファ県ジェイランブナルのシリア国境付近シリア側において、シリアのクルド人組織PYD（民主連合党）とシリアのアル・カーイダ系組織アル・ヌスラ戦線が戦闘を継続しており、26日、爆弾の破片がジェイランブナル・ガージー通りに落下する等危険な状態が続いている。（9月27日付C紙9面）

●【参考論調】シリア危機によるトルコ国境警備暗雲の再来

トルコは、現在まで、シリア、イラン、イラクといった隣国の脅威から国境を守備してきた。シリア国境ハタイ県レイハナルでは、死者52名、負傷者146名を出した大規模テロ事件が発生している。

シリア危機を通じて、トルコ国境を危機にさらしている要因に、密輸・密航があげられる。EU加盟国に交付される国境警備に関するFRONTEX（注）

作成 2011 年報告書によると、EU 圏に不法入域する者の 67%がトルコを経由しており、国境警備を強化するよう警告している。

シリア危機はこの問題をさらに顕著にしている。2013 年 8 月 16~22 日にかけて、シリアからトルコへ不法入国を企図した者は、881 名。国境警備の脆弱性が密輸・密航企図を助長している。(9 月 30 日 Reyhan Guner 氏 HD 紙 7 面)

【注：FRONTEX (欧州対外国境管理協力庁)】

EU (欧州連合) の専門機関の一つ。本部はポーランド・ワルシャワ。2005 年 6 月から運用が開始された各国国境隊の活動を調整する組織。毎年国境管理、不法出入国等に関する報告書を発行している。

●ロシア軍艦ボスポラス海峡を 62 回通航

本年 1 月から 9 月 25 日までの間、ロシア軍艦がボスポラス海峡を 62 回通航している。代表例としては、揚陸艦「Azov」8 回、揚陸艦「Kaliningrad」11 回、ミサイル艇「Moskva」6 回。シリア危機に関連し、ロシア海軍は、東地中海に 2 ヶ月から 3 ヶ月交代で、艦船を派遣している。(10 月 1 日付 HD 紙 3 面)

●イスタンブール市長、シリア避難民受入れ自治体を支援

トプバシュ・イスタンブール大市長はトルコ地方自治体連盟会長も務めており、シリア避難民受入れを行っている東部県のガーズィアンテップ、ハタイ、シャンルウルファの各県に対して重機や病人搬送車等を寄贈した。「寄贈したものは大したものではないが、各県を支援する姿勢を継続する気持ちを表したかった」と述べた。(10 月 1 日付 T 紙 4 面)

●トルコ政府、シリア攻撃許可延長を議会に申請

シリアに対する越境攻撃の許可を与える議会の承認は、10 月 4 日で期限である 1 年が経過するため、10 月 2 日、政府より議会に対して同承認をさらに 1 年延長する申請が提出された。追加された申請理由としては、避難民 50 万人、トルコ国籍の死者 71 名、シリア・アサド政権の化学兵器使用隠匿が挙げられている。(10 月 2 日付 C 紙 5 面)

●シリア国境において地雷により 1 名死亡

軍参謀本部の発表によると、10 月 1 日午前 5 時 40 分頃、マルディン県クズルテペ付近シリア国境において、3 名がシリアからトルコに侵入を試みたが、同経路は地雷原であったことから、1 名が地雷により爆死。2 名は身動きがとれず救助を求めていたため、トルコ軍が救出・拘束した。(10 月 2 日付 T 紙 10 面)

●アル・カーイダ関連組織のテロ計画

53 名が死亡したハタイ県レイハンルにおける爆弾テロ事件は、アル・カーイダ関連組織「イラク・ダマスカス・イスラム国家」(ISID) が実行した模様。同組織は、トルコ政府がキリス県シリア-トルコ国境のバブ-エル・ハヴァ及びバブ-エル・セラメ検問所を 10 月 7 日までに開放しなければ、イスタンブールとアンカラで自爆テロ攻撃を行うと発表している。両検問所は、ISID がシリアのアゼズを掌握した後、閉鎖されている。(10 月 2 日付 T 紙 10 面)

●エルドアン首相、安保理を批判

2 日、エルドアン首相は、イスタンブールにおいて開催された OECD 教育大臣非公式会合において、「常任 5 カ国中たった 1 カ国が反対しただけで機能が停止してしまう国連安保理の現行システムは改めなければならない。シリアのラタキアでは、高校が爆撃され、生徒数十名が死傷し、ナイジェリアにおいても学校が襲撃され生徒 40 名が死亡している。どのような国であっても子供を犠牲にすることは悪以外の何物でも無い。アサド政権は残虐である」と述べた。(10 月 3 日付 H 紙 37 面)

●プーチン露大統領トルコに感謝

プーチン大統領は、シリア問題の政治的・平和的解決に協力した英国、仏、トルコに感謝したいと述べた。(10 月 3 日付 HT 紙 10 面)

●中東国家の分裂

米ニューヨークタイムズ紙は、シリアの均衡が崩れた場合、中東のシリア、イラク、サウジアラビア、リビア及びイエメンは 14 の国に分かれてしまうだろうと報じた。(10 月 3 日付 HT 紙 10 面)

●レイハンル爆弾テロ事件について

(1)野党 CHP ギュルセル・テキン副党首は、「レイハンル爆弾テロ事件は、アル・カーイダが実行した。トルコは現在閉鎖している国境検問所を開放しなければ、再度攻撃が発生してしまう。トルコが支援している組織(注:アル・ヌスラ戦線を指していると思料)は、テロ組織であり、同組織と協力し、53 名のトルコ人を死亡させてしまったのが誰であるか明白である。(10 月 3 日付 T 紙 11 面)

(2)ギュレル内務大臣は、「レイハンル爆弾テロ事件は、アル・カーイダが実行したとの憶測が流れているが正しくない。」と述べた。(10 月 3 日付 HT 紙 10 面)

●シリア避難民、冬期に困窮

シリアからイスタンブールに避難しているシリア人が、低下してきた気温と雨天に苦しんでいる。イスタンブール大市ファーティヒ市サラチハーネ公園で生活するハサン氏一家は、「子供達は入れ替わり立ち替わり病気になる。我々はシリアからシャンルウルファに避難した。そこでは、イスタンブールに行けば仕事があるとされた。しかし、現在仕事と家を見つけることができない。我々は通行する人々からの援助でなんとか生きている。何をすれば良いのかわからない。公園で子供達と共に雨に濡れるしかない。」と述べた。(10 月 3 日付 TZ 紙 17 面)

●【参考論調】ジハード戦士によるシリア方程式の変化

シリアの内戦はもはや、残忍な独裁者に対し民主化を求める闘いではなくなった。アサド大統領は、化学兵器の使用を命じたかどうかにかかわらず、結果を利用し、世界中からの「のけ者」ではなく、公式な対話の相手に復活した。振り返ってみると、シリア国内におけるジハード戦士の活躍によりアサド政権が生きながらえたことは明白である。これらジハード戦士の存在が、西側の最新鋭武器が自由シリア軍へ流入することを防いだからだ。(10 月 3 日 Semih Idiz 氏 HD 紙 7 面)

3. 地方報道（南東部地方通信社インターネット版から抜粋）



※主にシリアと国境を接する上図赤線で囲った県における地方報道から抜粋

■ガーズィアンテップ在住の男性は、18 ヶ月前から行方が分からなくなっている息子を探している。警察によると彼の息子メフメット・ユルマズは、シリアとトルコを3回往復しており、アル・カーイダ関連組織の一員となっている模様。警察に息子の所在について相談していた際に、同父親が警察に拘束された。父親によると、息子は2年前から様々な集会に参加するようになり、突然アンカラに20日間旅行に出かけ、本人からはそれ以後連絡は取れなくなるという連絡が入った。同様のケースにより約170名がトルコからシリアに渡っている。父親によると、個人の判断でシリアに入国しているの、警察は何もできないと言われている。

ある日、息子から、現在アレッポに在住しており、アル・カーイダのために闘うので、帰ることができないと報告があった。

両親は、ガーズィアンテップ・ギュベン公園においてハンガーストライキを開始したが、38時間後に警察に拘束され、その後解放された。両親は、子供は騙されたのであり、救出するために助けて欲しいと主張している。(9月30日付 gaziantephaberler.com)

■ヴィランシェヒル地区において、治安機関の強制捜査が実施され、シリア人2名（47歳男性、41歳男性）が居住する住宅において、以下の武器等が発見された。

- ・AK-47 1丁
- ・ライフル銃 1丁
- ・弾丸
- ・けん銃 1丁
- ・ショットガン 2丁 (9月30日 shanliurfa.com)

■キリス県警察の麻薬取締捜査により、大麻48kg、35葉の乾燥大麻が押収され、2名が拘束された。(9月30日付 kilispostas.com)

■ハタイ県サマダ地区において、ケルダル山のレーダー基地不要、シリアとの戦争反対を主張する集会がSKYP（社会独立新党）主催により開催され、約750名が参集した。(10月1日付 hataygundem.com)

■アマノラ・ジャホン駐トルコ・アフガニスタン大使は、シリア内戦の経済的影響を視察するため、ハタイ県アンタキア市長を訪問した。同大使は、「ハタイ県のアフガニスタン人は自分の国のように住んでおり、ハタイの人々及びトルコの人々に感謝したい。」と述べた。(10月1日付 hataygundem.com)

■ガーズィアンテップにおいては、シリア人避難民が大量に流入しており、家賃が上昇。現在新学期となり、新大学生の住居がほとんど見つからない状態となっている。この状況に抗議するため、大学生らが抗議集会を開催。住居がないため、広場にテントで寝泊まりする学生もいる。(10月1日付 gaziantephaberler.com)

■キリス県において、9月20日頃、シリア人幼児（2歳）が行方不明となりAFAD（トルコ首相府緊急災害事態対応庁）による捜索が続けられていたが、井戸の中から遺体が発見された。警察により事件性の有無について捜査中。(10月2日付 kilispostas.com)

■ガーズィアンテップには、シリア人学生約750名が避難しており、内112名が半年間の高等トルコ語教育を受けた。トルコ高等教育管理局（YOK）は、シリア人でトルコ語高等教育を終了した者は、試験無しでトルコの大学に入学が可能としており、ガーズィアンテップ大学学長は、隣国シリアを支援する必要があり、若く優秀な学生は、将来自分の国の運命を決めていこうと述べた。(10月2日付 gaziantephaberler.com)

■駐トルコ・ルクセンブルク大使は、ガーズィアンテップ市長を訪問。(10月2日付 gaziantephaberler.com)